

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第23回 6次化と酪農体験通じ牛の魅力为消费者へ

# 牛は人のために役立つ、と酪農家の誇りを実感

地域交流牧場全国連絡会 関東ブロック(千葉県いすみ市 高秀牧場) **馬<sup>ま</sup>上<sup>かみ</sup> 温<sup>はる</sup>香<sup>か</sup>**

### 牛を眺めながら ジェラートを味わえる工房を開業

私は現在34歳です。千葉県いすみ市にある高秀牧場の長女として生まれ、高校卒業後、カナダへ留学しジョージブラウンカレッジでツーリズムマネジメントを学び、2013年に帰国。父が立ち上げたチーズ工房を引き継ぎ、ジェラート、菓子、飲食事業を開始しました。

高秀牧場は、1983年からいすみ市で酪農業を始め、現在約200頭のホルスタインを飼養しながら、チーズやジェラートを製造し、カフェも営んでいます。チーズ工房を開業したのは2012年で、多くのお客さんがチーズを求めて牧場を訪れてくれていましたが、私には一つの不満がありました。

「チーズは牛がいないとできないのに、どうしてお客さんは牛たちに一瞥(いちべつ)もくれることなく帰ってしまうのだろう。もっと牛を見てほしい」。そんな思いで、のんびり歩く牛の姿を眺めながら牛乳やジェラートが食べられるカフェ「高秀牧場ミルク

工房」を16年に開業したのです。

ミルク工房では、季節に合わせたジェラートを常時12種類提供する他、牛乳を使用したドリンクメニューや、自家製チーズを使ったピザなどの軽食メニューもそろえています。店内には「酪農のお仕事」「牛の一生」など酪農や牛を知ってもらうための掲示もしています。

お子さん連れの家族が、ジェラートを食べたり牛乳を飲みながら、「牛さんのおかげでこんなに美味しいものが食べられるんだよ」と話し掛けている姿を見ると、言いようのない感動を覚えます。

おいしい乳製品を通して、牛の魅力を伝えていくことが、高秀牧場の6次産業化の目的です

### 牛の温かさと優しい目には力がある

高秀牧場では、30年前から酪農体験を通じ消費者との交流を行ってきました。現在は30年前から内容をアップデートし、より食育に力を入れています。牛の温かさを知り、糞尿は堆肥として人間の食料生産に役立っていること、命が終わっても肉や革製品



ミルク工房左とチーズ工房



高秀牧場の4種類のチーズのピザクラフ トロフォルマッジン



店内の酪農掲示物



モーモースクールにて子牛と触れ合う子ども

として人の生活を豊かにしていることを伝えていきます。命を頂くことの大切さ、たくさんの命によって生かされている自分の命の尊さを感じてもらえることができれば、この世からフードロスも、いじめも自殺も戦争もきつとなくなるはず。本気でそう思うほど、牛たちの温かさと目の優しさには力があります。

私が酪農体験の魅力に気付いたのは約10年前、牧場がチーズ工房を始めたばかりの頃でした。関東生乳販連が主催する「わくわくモーモースクール」へ気まぐれで参加し、酪農家が参加者に語り掛ける牛の授業に、涙が出るほど感激してしまったのです。このイベントは、小学校に牛を連れていき、乳搾りなどのふれあい体験と、酪農家の話を通して酪農の理解を深める活動です。子どもたちの、子牛を優しくなでる表情や真剣な学びの顔がとて印象的でした。それをきっかけに、自分の牧場で実施する酪農体験や、わくわくモーモースクールでの先生役を担当させてもらうようになりました。

こうした活動を通して、全てを人のために役立つすごい動物を育てている、という酪農家としての誇りを持つようになりました。毎日子どもたちが飲む牛乳を私たちが生産しているという誇りは、日々の仕事のモチベーションを高めてくれます。どちらも地道な活動ですが、確実に消費者の理解醸成に役立っていると感じます。酪農体験をきっかけに牛を好きになってくれた子どもたちが、一人でも酪農の道に進ん

でくれたらいいな、と淡い期待もしています。

どこもかしこも人手不足といわれる昨今ですが、高秀牧場には20代を中心に活発なスタッフが集まっています。6次化や酪農体験に興味があるスタッフも多く、これらの活動は間違いなく牧場の人材確保に役立っていると感じます。地域の小学校も体験活動に来てくれるようになり、「地域で愛される牧場になってきたなあ」としみじみ思う今日このごろです。

### 大好きな牛と関われる喜びを胸に 発信を続けたい

酪農体験や6次化を行っている、子どもたちから、「牛乳大好き!」「牛乳おいしい!」と直接声を聞く機会が多くあります。シンプルなお子さんの思いなのでしょうが、これで間違いなくやる気がアップします。私自身、幼少期に酪農の道を志しましたが、生まれつきの動物アレルギーで酪農家として現場に立つことはできませんでした。それでも加工・販売部門を担当することで、大好きな牛に関わり、その魅力を伝える仕事に関わっていることをとてもうれしく思っています。「酪農の魅力を伝えていくことこそ、酪農家の娘に生まれた私の使命!」と考え、これからも「伝道師」として酪農の魅力を発信し続けるつもりです。



牧場をバックにミルク工房スタッフと

#### 【牧場概要】

牧場名 (有)高秀牧場  
代表者名 高橋憲二  
所在地 千葉県いすみ市須賀谷1339-1  
総飼養頭数 200頭(うち搾乳牛109)  
年間生産乳量 約900t  
飼養形態 つなぎ飼育  
飼料畑面積 40ha(牧草、トウモロコシ)  
牧場スタッフ 17人(牧場7人、工房10人)  
交牧連加入年 2010年  
主な活動 酪農教育ファーム受け入れ(15件/年)、出前授業(8回/年)

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先  
(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
メール:koubokuren@churaku.jp  
ホームページ:https://www.dairy-farm.jp/  
フェイスブック:https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】